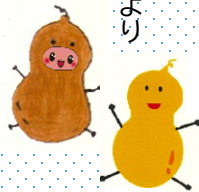


かわら版

いわしる

集落支援員だより



「しめ縄を編んで地元
の神社に毎年奉納しては
や三十年。この冬も楽し
んで編むつもりです」
菅野（かんの）徳太さん

茂原字高坊在住の菅野徳太さんは毎年、二十本以上のしめ縄を編んで地元神社に奉納しています。徳太さんにしめ縄作りを始めたいきっかけや工夫点、奉納先、今後の抱負等についてお話をうかがいました。



▲納屋の2階には、来年用のしめ縄が干されています

Q 始めたきっかけは？

農家の後継ぎとして米作りや養蚕、畜産など手掛けてきました。いろいろな手作りをするのは好きですが、ある日、同じ年の友人が「神社のしめ縄を編めるのは自分一人だけだ」と言うのを聞いて、負けず嫌いの性分が刺激されたのがきっかけでした。自分で古いしめ縄を解いて、編み方を一生懸命覚えたいんです。それが、今から約三十年前のことでした。



▲慣れた手付きでしめ縄作り

Q 奉納する神社について

奉納する地元の神社といえば、真つ先に旭神社と日山神社が挙げられます。我が家の庭から日山が眺められますが、子どもの頃、お祭りの日に登って遊んだ馴染みのある山で、その頂上に祀られているのが両神社です。登山口もいくつもあり、鳥居も数か所にありますので、それ

菅野徳太さんの作業場を見学 わら細工の凝った作品も！

徳太さんは自宅母屋の隣にある、蚕小屋だった納屋の2階をしめ縄作りの作業場にしています。昔、編んだという懐かしいわら細工の作品も見学させていただきました。

★背当て

結婚したばかりの20代の頃に初めて編んだ背当て。「当時、奥さんに見せて自慢したくて作ったんだ（笑）」と徳太さん。

★みの

昔、雨の日の農作業には欠かせなかったみのも、自分で編んだそうです。



▲みのと背当て。古い背当てを解いて編み方を自分で解明。背当てには木綿の布が模様風に織り込まれています



▼茂原からキャンプ場に向かう旭神社一ノ鳥居にも、しめ縄が飾られています



それぞれ鳥居の高さや幅などを計り、しめ縄の太さや長さを調整して作っています。

他にも地元にある別の神社に奉納したり、人に頼まれて、地元以外の神社のしめ縄を編むこともあります。

Q 今後の希望や抱負は？

毎年、農閑期の一月にしめ縄を作るのですが、最近わらが不足気味です。昔のように稲を自然乾燥する家が少なくなり、私

▼日山キャンプ場の茂原登山口にある旭神社二ノ鳥居にも新しいしめ縄が奉納されていました



も体力的に衰え、わら作りができにくくなっています。もし稲わらを持っていく家があったら分けていただけると助かります。今後の希望としては、しめ縄を編む技術をより若い世代に受け継いでほしいですね。興味のあふれる人がいたら大歓迎です。しめ縄作りを体験したいときは、気軽に声をかけていただければと思います。

～創立50周年記念式典が開催されました～安達東高校特集⑥

▼記念碑除幕式には花火も上がりました



記念碑除幕式も行われ、校歌が刻まれた記念碑が設置されました。



▲来賓・招待者約60名が出席し、盛大に開催

去る十月二十九日、福島県立安達東高校の体育館で創立五十周年記念式典が開催されました。来賓祝辞等に続いて安達東高校前生徒会長の結城南海さんにより「生徒代表によることば」が読み上げられ高校生活の思い出が語られました。

11月28日(月)～安達東高校でシクラメンを販売します！



▲3年生の菅野さん、吉田さん、佐々木さんが栽培しました。「皆さん、ぜひ来てください！」

安達東高校生が育てたシクラメンが今年も見事に開花しました。園芸コースの生徒3名が心をこめて育てた花を販売します。ぜひ足を運んでください。
★販売期間：11月28日(月)から
★時間：9時～16時頃
★場所：安達東高校 農場 草花温室
★価格：1鉢1,000円
※売り切れ次第、販売終了となりますのでご了承ください。
※問い合わせ先：安達東高校
☎0243-55-2111

安達東高校でグリーンライフの授業を選択する三年生の生徒十名が九月二十四日、「道の駅さくらの郷」を訪問。安齋駅長に迎えられて施設内を見学し、体験交流施設では道の駅の成り立ちや現在までの軌跡について話を聞きました。
続いて高校生が三班に分かれて考案した「新ざくざく」をスライドで紹介。シジミと野菜を用いたサラダ風、フルーツたっぷりのデザート風、抹茶と豆乳入り汁物風と斬新なレシピに加えて、材料費や一人前の原価なども発表されました。安齋駅長は「発想が新鮮で面白いですね」とコメントしていました。



▲直売所やピザ焼き石窯、食堂を見学。人気のある商品についても説明を受けました
▶実際に作ったざくざくの写真や味についての感想も発表

ざくざくとは？
生徒の皆さんは最初に「ざくざくとは1センチ四方にカットした食材を用いた汁物風料理」と定義。その後で、若者に好まれるメニューの研究が始まったそうです。



「道の駅さくらの郷」を安達東高校生が訪問
斬新な「ざくざく」レシピが紹介されました

そのような中、安積疏水開削は広大な耕地を造成し、土族を入植させることにより授産と農業振興、さらには国力増強に寄与できるとの考えで政府は積極的に推進することになった。
しかし、そうした情勢下において、閑哉は、明治六(一八七三)年八月十九日、七十五歳で病没してしまつたのである。

また、廃藩によって全国の武士は失業、新しい仕事も見つからず、政府への不満が日増しに高まっており、政府は、土族への授産事業をどのように進めるかが重要な課題であり、その対策に苦慮していた。
さらに、同年の秋、第三回目の現地踏査を実施する。
国においては、戊辰戦争終結によって疲弊した国内を回復させるため苦慮している時期であった。膨大な戦費を費やし、国の財政は枯渇していた。

明治三(一八七〇)年の春、閑哉は七十三歳の身で友人今泉一三郎と共に二回目の現地踏査を実施し、福島県庁に疏水計画についての建白書を提出する。
明治五(一八七二)年、時の県令(現在の知事)安場保和は、閑哉を県庁に呼んで意見を聞いたという。
「渡邊閑哉と安積疏水」 ④

岩代の歴史シリーズ

わたなべかんざい あさかそすい